

Y12c 外国語学部における天文学実習の取り組み

福江慧 (京都産業大学), 福江翼 (神戸市外国語大学)

外国語学部における授業科目において 2019 年度から天文実習を取り入れている。この講義では観測天文学について概観しながら、私たちにとって身近な天体である太陽を中心に実際に光学機器や計算機を用いた実習を行い、天体観測の基本的な手法を学ぶことで自然科学の理解を進めている。文系の学部生を主に対象としているため、理科の高度な知識は前提とせず、実験全体の流れを体験してもらうことで、基礎的な天体観測を実感して学べる授業を目指した。実習内容としては、(1) デジタルカメラを用いた太陽の写真撮影と、それを用いた太陽の活動についての考察、(2) 簡易分光器の作成と身近な光源を用いたスペクトルの勉強、(3) 日食観測のための観測計画の立案、などである。

2019 年度は授業のなかで実際に撮影などを行うことができた。一方で、2020 年度は感染症拡大のために多くの授業がオンラインとなった。本講義も対面での授業は困難となったため、どのように講義を実施するかが課題となった。そのため、学生と一緒に撮影や分光器を作ることはできなかったが、あらかじめ撮影した太陽の写真のデータなどを配布し、オフィスソフト上で作業が全て実施できるような課題を設定する等の対応を行い、実施することができた。

本発表では外国語学部におけるこれらの授業の取り組みの報告を行う。また、文系の学部における天文学教育のあり方についても議論したい。